林 業 普 及 現 地 情 報
2023-29 号（通算 492 号）
令 和 6 年 2 月 15 日
二戸農林振興センター林務室
記 述 者　　川 又　　翔 子

漆資源の確保に向けた取組について
～ウルシ植栽適地研修会を開催～

１　はじめに

平成 27 年２月に文化庁が「重要文化財等の修復に原則として国産漆を使用する」との方針を決定しました。国内の需要予測によると年間平均使用量約2.2トンが必要とされていますが、令和４年の生産量は約 1.4t となっており、国産漆の生産量の増産が求められています。

二戸地域における浄法寺漆の生産量は、国産漆の約８割を占めており、国産漆の最大産地として、将来に向けた漆資源の確保が必要となっています。

２　ウルシ植栽地の現状

漆資源確保のため、二戸地域では、ウルシの植栽が進められており、山林だけでなく、遊休農地を活用して、水田や畑、果樹園跡地にも植栽されていますが、植栽後の生育不良や枯死する事例が生じており、ウルシの成長が必ずしも順調でない植栽地が散見されています。

そこで、当室では、ウルシの生育に適した植栽環境の知識等の普及を図るため、研修会を開催しました。

３　研修内容

研修会は、岩手大学農学部の白旗准教授を講師に招いて、令和５年 12 月５日に行い、市町村や森林組合、岩手県浄法寺漆生産組合など 20 名が参加しました。

現地研修は、ウルシの生育不良地（水田跡地）と生育良好地（葉たばこ跡地）の２箇所で行いました。ウルシの生育良好地では、有効土層が厚い傾向があることから、講師が土壌を検土杖で調べたところ、生育不良地よりも生育良好地の方が、有効土層が厚いことがわかりました。

また、ウルシは、過湿土壌に弱いため、水田跡地のような水が停滞するところは、ウルシの植栽に不適であることがわかりました。

室内研修では、「ウルシ植栽時に考慮すべき適地適木」をテーマに、基本的な「適地適木」の知識、ウルシ植栽適地の条件について、講師から指導をいただきました。

４　今後の取組

今回の研修を受け、参加者はウルシが好む植栽適地を学ぶことができ、今後、生育良好なウルシ植栽地が増えることが期待されます。

また、二戸地域では、近年、ウルシ植栽地の獣害が増加していることから、当室では、今後、獣害対策に向けた取組を進めていきます。

成育不良地（水田跡地）

成育良好地（葉たばこ跡地）